



天を造り出し、  
これを引き延べ、  
地とその産物を押し広め、  
その上の民に息を与え、  
この上を歩む者に  
霊を授けた創造主は  
こう仰せられる。  
わたし、主は、  
義をもってあなたを召し、  
あなたの手を握り、  
あなたを見守り、  
あなたを民の契約とし、  
国々の光とする。

# 地球の年齢の科学的証拠

ジェネシスジャパン会長 宇佐神 実

わたしが地の基を定めたとき、  
あなたはどこにいたのか。  
分かっているなら、告げてみよ。

ヨブ記三八章四節

北東方面から撮影した日本の衛星写真／提供：NASA

## 恣意的な年代

進化論が一世を風靡する日本においては、地球ができてから45億年という年代が、当然のように人々に受け入れられています。それは科学によって証明されたと思っ込んでいます。しかしその年代は、進化の歴史があったはずだから、これだけあればこと足りるとしてはじき出された数字に過ぎません。

そのことについて、ホルトは生

物学の教科書の中で「放射性年代を用い、科学者たちは地球の年齢をおよそ45億歳と決定し、それだけあればすべての種が進化して出現するのに十分だとした。」<sup>1</sup>と述べています。

進化論の歴史を観察し実験できる人はいないし、科学として証明できるものでもないのです。実際に放射性年代のデータは、誰が見ても客観的で正確な答えが出るのでしょうか。それとも人が恣意的

に選んでいるのでしょうか。

1986年のネイチャー誌の記事に、オーストラリア西部のジャックヒルズから採掘された、地球で最古のジルコン結晶が、放射性同位体による年代測定によって43億年前のものと判ったと報じられました。

実際に分析されたのは140個のジルコン結晶でした。ウラン235とウラン238を用いたコンコーディア法（極めて精度の高





い年代測定ができることとされる)によって分析されましたが、その1つが43億年を示したのです。残り139のそれとは矛盾する分析結果を無視し、研究者は進化論の推測に合い、自分が適切と信じる43億年という年代が与えられたと発表したのです。客観的に考えれば、140すべての分析結果を統計によって分析し、この年代測定法自体の有効性も含め結論が出されるべきです。しかし彼は恣意的に選んだのでした。<sup>2</sup>

1988年のネイチャー誌では、再び世界最古の岩石が報じられました。それはザイールで発見されたダイヤモンドで、カリウム-アルゴン法によって60億年前という年代が与えられました。しかしその年代が45億年より古過ぎて進化論と矛盾するため、研究者たちは、それが間違いだと結論づけ、無視することにしました。<sup>2</sup>

実際に、放射性同位元素による年代測定では、同じ岩石でも違う部位が分析されれば全く違う年代になったりします。客観的に年代が決まるわけでも正確な絶対年代が出るわけでもないのです。

この問題は1980年代にはすでに指摘されています。「放射性炭素年代測定法の問題は、深刻なほど否定できない。35年にわたって技術が洗練され、理解が深まったにも関わらず、前提にある仮定に対して強く問題提起がなされている。測定された年代の半数が否定されている事を考えるなら、これは驚くに値しない。不思議な事は、残りの半数が受け入れられている事である。」<sup>3</sup>

複数ある測定結果サンプルのどれが正しくどれが間違っているか

### 炭素 14 法の考え方

1. 宇宙線(ν)が<sup>14</sup>Nに衝突して<sup>14</sup>CとH(水素)を産生する
  2. <sup>14</sup>Cは直ちに酸素と結合して二酸化炭素になる
  3. 光合成で<sup>14</sup>Cを含む二酸化炭素も植物に取り込まれ、さらに人や動物がそれを取り込む
  4. <sup>14</sup>Cは徐々に消失し<sup>14</sup>Nに戻る
  5. 大気中の<sup>14</sup>Cの消失速度は3万年で<sup>14</sup>C産生速度と平衡に達する
  6. 仮定: 地球が45億であれば<sup>14</sup>Cの産生速度と消失速度は平衡に達している
  7. 生きた生物中の<sup>14</sup>Cと<sup>12</sup>Cの割合は大気中と同じだが、死ぬと生物中の<sup>14</sup>Cは徐々に崩壊して消失する
  9. 仮定が正しければ<sup>14</sup>Cが少ない生物化石ほど古いと言える
- 科学的事実: 平衡に達していない

を調べる方法もありません。このように、単に進化するのに十分な年月があるだろうという推測上の理由で「地球ができて45億年」と信じられているのです。

私たちが日常得られるニュースなどの情報では、地球が誕生してから45億年も経っていないことを示唆する客観的科学データを目にした耳にしたりすることはほとんどありませんが、実際には、そのような科学データがたくさんあります。

なぜそのような研究成果は評価されないのでしょうか。それはもちろん、進化論で信じられている年代に反するからです。あえてそれを声高に主張するなら、科学者として窓際に追いやられるか、相手にされなくなることを覚悟しなければなりません。

ですから進化論の年代という呪縛のために客観的科学の成果が無視され、捨てられ、あるいは日の目を見ないでいるのです。

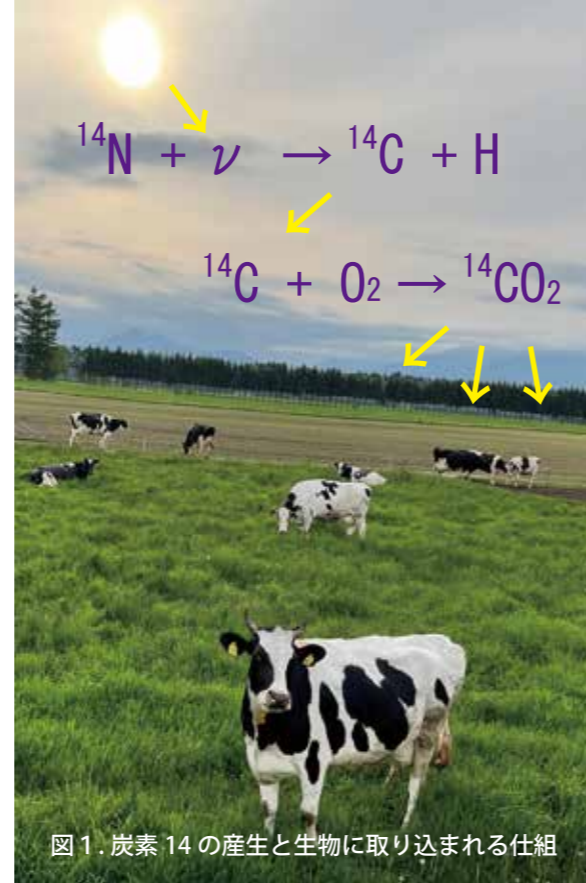


図1. 炭素 14 の産生と生物に取り込まれる仕組み

## 客観的な証拠

### 1. 大気中の炭素 14

炭素 14 法は、後にノーベル化学賞を受賞したウィリアム・リビーらによって1947年にサイエンス誌で発表されました。この方法は、有機物、すなわち炭素を有する動植物の年代測定に広く用いられています。

リビーは大気中の<sup>14</sup>C(炭素 14)と<sup>12</sup>C(炭素 12)の割合は一定であると仮定しました。そして生物が活着している間は大気と同じ割合で<sup>14</sup>Cと<sup>12</sup>Cを取り込むが、死んだら取り込むのを終えるので、その生物中の<sup>14</sup>Cは放射性崩壊によって徐々に減少していきます。こうして<sup>14</sup>Cの割合が低いほどその生物の年代は古いことが測定できると考えたのです。

図1の化学式のように、<sup>14</sup>N(窒素 14)に宇宙線(ν)が衝突して陽子の1つが中性子に変わり<sup>14</sup>Cが産生されます。これによって毎年7.5kgの<sup>14</sup>Cが産生されていま

す。リビーは同量の<sup>14</sup>Cが消失しているはずだと推定しました。<sup>14</sup>Cの産生速度と消失速度が平衡に達するのに、最初0から始まったとしても、約3万年です。進化論の歴史では地球は45億年ですから、これが平衡に達していないはずがないと考えたのです。

リビーは、実験によって平衡に達していることを確認しようとしました。その結果、<sup>14</sup>Cの産生速度が消失速度を約25%上回っているという憂慮すべきデータしか得られなかったのです。

このデータが正しければ、地球はできてから3万年よりもはるかに少ない年月しか経過していないこととなります。リビーは実験に問題があったに違いないと考えて、この結果を無視しました。

その後、化学者たちは、このリビーの実験を繰り返し、<sup>14</sup>Cの産生速度と消失速度が平衡に達していることを証明しようとしました。しかし判ったのは、リビーの「実験結果は正しかった」ということでした。<sup>4</sup>

<sup>14</sup>Cが平衡に達していないなら、時代を遡れば遡るほど<sup>14</sup>Cの大気中の割合が減っていきます。ですから、実際には数千年前の化石であっても最初から<sup>14</sup>Cが少ないため、炭素 14 法では数万年前という結果が出てしまうのです。

炭素 14 法は、仮定が間違っているため、実際よりもはるかに古い結果が出ます。また、炭素 14 の産生速度と消失速度が平衡に達していないということ自体が、地球の誕生が3万年より遥かに若いという明白な証拠なのです。

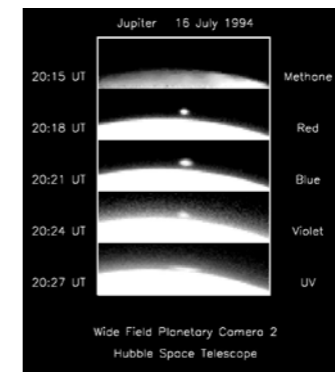
### 2. ティラノサウルスの柔組織

メアリー・シュワイツァーは、1993年にティラノサウルスの大腿骨に血管や赤血球などの柔組織が残されているのを発見しました。その後もさまざまな恐竜の柔組織を発見し、またDNAの取り出しにも成功しています。このような柔組織は、どんなに保存状態が良くてもせいぜい数千年と言われています。

進化論によれば、ティラノサウルスは6,500万年前に絶滅したと推測されていて、もしそれが正しければDNAや血管や赤血球などの柔組織は遠の昔に分解されてなくなっているはずですが、

シュワイツァーは、2006年のディスカバリー誌で「誰でも柔組織がどのように分解されるか判っている。血液を棚に付着させた場合、1週間もすればそれは判らなくなってしまう。それと同じで恐竜に何か残っているはずがあるだろうか。」<sup>5</sup>と述べ、もし6,500万年前に恐竜が絶滅したなら、恐竜の柔組織が今日まで残されているはずがないことを述べています。

現在ノース・カロライナ州立大学教授となったシュワイツァーの研究成果は、徐々に受け入れられるようになりました。恐竜の化石に柔組織が観察される事実は疑いようのない証拠となっています。



(日本でも2005年の朝日新聞に掲載されています。)<sup>6</sup>このことは、恐竜絶滅から6,500万年も経っているのではなく、数千年以内であることを示しているのです。

### 3. 遠ざかる月

月は現時点で3.78cm/年ずつ地球から遠ざかっています。現在の地球と月の距離は約38万4,000kmです。天地創造が約6,000年前であれば、逆算して今よりも約230m月が近かったこととなりますが、地球への影響はほぼ皆無でしょう。しかしこれが45億年前となると大問題です。では、月が存在できる最も古い年代はどのくらいでしょうか。

進化論では、月の年齢は45億1,000歳で、地球とほぼ同時期に存在していたと推測されます。ところが、月には地球に近づける限界点があります。それ以上近づくと引力に負けて衝突してしまうからです。この限界点はロッシュ限界と呼ばれます。

1994年には、木星のロッシュ限界内にシューメーカー・レビー第9彗星が入ってしまい、破壊されて木星に衝突しました。

地球の場合、ロッシュ限界は、約1万9,100kmです。月は地球に近ければ近いほど重力の影響を受けるので、遠ざかる速度もそれ

写真左: シューメーカー・レビー第9彗星の木星衝突の様子 / 写真右: 衝突痕 (褐色部分)



だけ速くなければ脱出できず逆に地球に引き込まれてしまいます。

それを踏まえて算定すると、月は13億年前にロッシュ限界に位置し、それ以前に存在できるはずがないのです。<sup>7</sup>

オーストラリアの創造論者ドン・バッテン博士は、このような地球が若いことを示唆する101の証拠を挙げています。<sup>8</sup>

## 聖書に基づく地球の年齢

このように多くの科学的証拠から地球が45億年前にできたというのは非現実的であり、それより遥かに若いことが判ります。しかし科学によって地球の起源を6,000年前と特定することはできません。それは、観察者の証言によらなければならないからです。誰もそれを見た人

はいませんが、天地を創造した創造主の証言、聖書があります。そしてそれは、科学的証拠と一致しているのです。

歴代の聖書学者が、聖書に基づいて天地創造の年を算出しています。西暦169年、アンテオケのテオピロは紀元前5529年と算出し、宗教改革者マルチン・ルターは紀元前4000年としました。

聖書に基づく天地創造の年代でよく知られているジェームズ・アッシャー司教は膨大な資料の研究をまとめて『年代記』<sup>9</sup>を著し紀元前4004年としました。ジェネシスジャパンでは、この『年代記』を参考に天地創造からの年表を作成していますので、聖書と見比べて確認してみてください。

地球を造った創造主の証言か、その時いなかった進化論者の憶測か、あなたはどちらを信じますか。

### 引用文献・参考文献

1. Holt, R., "Biology: Visualizing Life", Holt, Rinehart & Winston, 1998, p.177.
2. Williams, A. "Flaws in dating the earth as ancient" *Creation ex nihilo* No.18, vol. 1, December 1995. <<https://creation.com/flaws-in-dating-the-earth-as-ancient>>
3. Lee, R. "Radiocarbon: Ages in Error," *Anthropological Journal of Canada*, 1981, pp. 26-27.
4. Richard, Milton, *Shattering the Myths of Darwinism*, 1997, p. 32.
5. Yeoman, B. "Schweitzer's Dangerous Discovery" *Discover* Apr 27, 2006 <<https://www.discovermagazine.com/the-sciences/schweitzers-dangerous-discovery>>
6. 「6800万年前の恐竜化石から細胞・血管 米で発見」朝日新聞 2005年03月25日 <<http://www.asahi.com/science/news/TKY200503240358.html>>
7. Henry, J. "The moon's recession and age" *Journal of Creation* 20(2):pp.65-70, August 2006 <<https://creation.com/the-moons-recession-and-age>>
8. Batten, D. "Age of the earth" CMI homepage <<https://creation.com/age-of-the-earth>>
9. Ussher, J. "The Annals of the World" Master Books, 2007.

## お祈りください

- ・コロナウイルスの流行のため対外的な講演活動がほぼ停止しています。講演活動の早期再開のために。
- ・養成講座を通して、創造を語る人が起こされるように。
- ・アジア圏での創造を伝える働きが前進する様に。

## 献金のお願い

国内外に創造のみわざを伝えるため、ご支援をお願いします。

ジェネシスジャパン

ゆうびん振替 00350-7-3364

ゆうちょ銀行 10650-52405611

## 講義・イベント予定

### ■ホームスクーラーのための創造講座

\*2021/9/30-10/2 @千葉県/勝浦

### ■秋の創造セミナー

\*2021/10/14-16 @長野県/白馬

コロナワクチン摂取済みの方対象

詳細はお問い合わせください

### ■創造を伝える働き人養成講座

\*2021/11/8-9 @北海道/然別湖

### ■CFNJ 聖書学院

\*2021/11/15-17 @北海道/石狩

### ■第四回全アジア創造カンファレンス台湾大会

2023年まで延期の予定

(台湾政府による外国人入国制限のため)

お問い合わせ・セミナーのご依頼は、ジェネシスジャパンまで

## 創造を伝える働き人養成講座

### 【募集要項】

- ・聖書の言葉が創造主の言葉だと信じる方。
- ・御子イエス・キリストを救い主と信じる方。
- ・創造を信じることの大切さを学び、伝えたいと願う方。



### 講座の目的と概要

- \*創造主のみわざのすばらしさに感動し、その感動を伝える働き人が起こされる。
  - \*創造論の講演に加え、創造論の背景となる知識や考え方を少人数で学ぶ。
  - \*創造を伝えるために役立つ資料の提供。
  - \*修了証授与(全日程参加者)
  - \*創造論を用いての個人伝道、CSや教会でのメッセージ、講演ができるよう協力。
- 2泊3日5食・定員12名・参加費3万円

### 講座開催予定

サテライト講座

然別湖 2021/11/8-9 1泊2日(一般・教役者)

(参加費等はお問い合わせください)

詳細はジェネシスジャパンまで